

# 会 議 録

会議の名称	令和6年度 中野市・山ノ内町地域公共交通対策協議会総会		
日 時	令和6年5月8日（水） 15：00～16：40		
会 場	中野市役所5階 会議室52・53		
出席者等	<p>出席委員：19名（うち代理出席1名）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中野市 副市長 竹内 敏昭</li> <li>・山ノ内町 副町長 久保田 敦</li> <li>・東日本旅行鉄道株式会社 長野支店 大川 敦</li> <li>・長野電鉄株式会社 運輸課長 平井 義高</li> <li>・長電バス株式会社 乗合・乗用部長代理 高山 和良</li> <li>・中野ハイヤー株式会社 専務取締役 石渡 陸夫</li> <li>・北陸信越運輸局 長野運輸支局 主席運輸企画専門官 山岸 康範</li> <li>・北信地域振興局 企画振興課長 羽田 直史</li> <li>・北信建設事務所 中野事務所 事務所長 岩垂 宏明</li> <li>・中野警察署 交通係長 田島 久志(代理)</li> <li>・山ノ内町交番 所長 山崎 賢二</li> <li>・中野市区長会 会長 鈴木 浩史</li> <li>・山ノ内町区長会 会長 畔上 三行</li> <li>・長野工業高等学校 都市デザイン係 教授 柳沢 吉保</li> <li>・信州中野商工会議所 専務理事 池田 喜芳</li> <li>・山ノ内町商工会 会長 田中 篤</li> <li>・中野市社会福祉協議会 会長 酒井 久</li> <li>・山ノ内町社会福祉協議会 事務局長 山口 辰也</li> <li>・中高交通安全協会 会長 竹内 敬三</li> <li>・(一財)山ノ内まちづくり観光局 専務理事 湯本 義則</li> <li>・長野電鉄労働組合 副執行委員長 清滝 淳也</li> <li>・公募（中野市） 小林 信幸</li> <li>・公募（中野市） 市村 義明</li> <li>・公募（山ノ内町） 松本 百合子</li> </ul> <p>事務局：7名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中野市総務部 部長 栗林 淳一（幹事長）</li> <li>・中野市総務部企画財政課 課長 阿藤 博之（事務局長）</li> <li>・中野市総務部企画財政課 係長 池田 寿</li> <li>・中野市総務部企画財政課 主事 高橋 悠</li> <li>・山ノ内町未来創造課 課長 堀米 貴秀（副事務局長）</li> <li>・山ノ内町未来創造課 係長 樋口 淳一</li> <li>・山ノ内町未来創造課 主任 樋口 智章</li> </ul>		

	随 行：1名
次第	<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 付議事項</p> <p>報告第1号 令和5年度事業報告について</p> <p>報告第2号 地域公共交通計画 令和5年度の目標達成状況について</p> <p>議案第1号 令和5年度決算について</p> <p>議案第2号 中野市・山ノ内町地域公共交通対策協議会規約の改正について</p> <p>議案第3号 令和6年度事業計画(案)について</p> <p>議案第4号 令和6年度予算(案)について</p> <p>議案第5号 令和6年度 中野市・山ノ内町地域公共交通対策協議会 役員の選出について</p> <p>議案第6号 地域間幹線系統確保維持計画(案)について</p> <p>議案第7号 地域公共交通計画別紙(案)について</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>
資料	・ 次第、議事・資料、名簿、席次表
発言内容	・ 別紙のとおり

内容要旨	<p>1 開会           【進行】中野市 総務部長 栗林 淳一（幹事長）</p> <p>2 あいさつ      中野市 副市長 竹内 敏昭（会長）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・今年度、初の開催となりますが、昨年度の実績を踏まえ、新年度の事業計画を皆さんと立てたいと思います。</li><li>・地域の公共交通は、日本全国どこも非常に厳しい状況であり、その中でも運転手不足については大きな課題であります。</li><li>・少子高齢化の時代の中、持続可能な公共交通の在り方を維持していくにあたり、皆さんから知恵をいただき対策を進めたいと思います。</li></ul> <p>3 付議事項      中野市総務部企画財政課 課長 阿藤 博之（事務局長）</p> <p>＜報告第1号 令和5年度事業報告について＞</p> <p>＜報告第2号 地域公共交通計画 令和5年度の目標達成状況について＞</p> <p>＜議案第1号 令和5年度決算について＞</p> <p>→【事務局】中野市総務部企画財政課 課長 阿藤 博之（事務局長）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・報告第2号 中野市・山ノ内町地域公共交通計画 目標達成状況の評価について、数値に誤りがあるため一部修正します。</li></ul> <p>●山ノ内町社会福祉協議会 事務局長 山口辰也（監事）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・中野市・山ノ内町地域公共交通対策協議会会計について、会計簿及び証拠書類を監査した結果、適正に処理されていたことを報告します。</li></ul> <p>●長野工業高等専門学校 柳沢委員</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・中野市・山ノ内町地域公共交通計画 目標達成状況の評価について、目標値と基準値があるが、これにはどんな違いがあるのか。</li><li>・進捗状況が目標値を超えると達成状況が○となるのか。</li><li>・目標達成に対して評価しているが、他にも多くの事業があると思うが、それについて評価していないがなぜか。</li></ul> <p>→【事務局】中野市総務部企画財政課 課長 阿藤 博之（事務局長）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・基準値に対して、進捗状況が目標値を超える場合は、達成状況が○となります。</li></ul> <p>→【事務局】山ノ内町未来創造課 課長 堀米 貴秀（副事務局長）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・基準値については、2022年8月に策定した、中野市・山ノ内町地域公共交通計画の中で定めている数値であります。</li><li>・目標値については、計画の目標年度である、2027年3月時点の数値となり、進捗状況については、途中経過の数値となります。</li><li>・事業については、「幹線バス路線の運行維持」、「バス利用状況の継続的な把握」等、</li></ul>
------	--

内容要旨

数値目標で示せない事業があるため、今回は、目標値の数値について報告させていただいた。

・基準値等の数値は、目標として示しておりませんが、事業として何をするのかというところを、2027年3月の目標達成に向け、委員の皆さんに相談しながら事業を進めたいと考えます。最終的に皆さんへ目標、目標値、進捗状況をお示しする中で、この事業をやりました、これはクリアできませんでしたという検証の材料になると思います。

●長野工業高等専門学校 柳沢委員

・目標達成に向けどのような事業をやったかを報告してもらいたい。詳しい説明がないと議論の余地がない。

→【事務局】中野市総務部企画財政課 課長 阿藤 博之（事務局長）

・事業実施の内容については、もう少し詳しい説明、丁寧な説明が必要であったと反省しています。次回の協議会では、詳しい説明をさせていただきます。

●その他意見なし

次回の協議会からは、事業実施内容について、詳細を説明することで、議案第1号については原案どおり承認。

<議案第2号 中野市・山ノ内町地域公共交通対策協議会規約の改正について>

→【事務局】山ノ内町未来創造課 樋口 智章

・協議会規約第4条、「山ノ内町観光連盟」の解散により、本日の協議会より「一般財団法人山ノ内まちづくり観光局」に委員を引き継いでいただくため、規約を改める。

・協議会規約第20条第3項、山ノ内町組織改編により、公共交通担当課が総務課から未来創造課となったことから、「山ノ内町総務課長」を「未来創造課長」に改める。

●意見なし

異議がなかったため、議案第2号については原案どおり承認された。

<議案第3号 令和6年度事業計画（案）について>

<議案第4号 令和6年度予算（案）について>

→【事務局】中野市総務部企画財政課 課長 阿藤 博之（事務局長）

・議案第3号について説明。

→【事務局】中野市未来創造課地域創造係 樋口 智章

・令和5年12月から6月末までの計画にてチョイソコやまのうち実証運行を実施している。令和6年1月16日・17日に意見交換会を開催し、26名の参加者に利用状況・アンケート調査を実施した。

・令和6年4月10日～12日に第2回意見交換会を開催し、30名の参加者に利用状況・「チョイソコやまのうち」・「楽ちんバス」どちらの方がいいかアンケート調査を実施しました。その後、意見交換会に欠席された、会員登録を対象にアンケート調査及び電話にて聞き取りを行い、対象者、登録会員数120名に対し、回答数84名、回答率70%であり、「チョイソコやまのうち」の方がいい87%、楽ちんバスの方がいい13%であり、会員登録者の多くから引き続きチョイソコやまのうちの継続を望む結果となった。

・実証運行が6月末で終了となるが、7月以降から本格運行に切り替えを考えており、6月議会にて運賃について条例改正を行う予定です。

・7月以降から本格運行に切り替えた際は、イオン中野店・須藤医院へバス停追加をしたいと考えている。イオン中野店については、運転手の確保ができ、バス2台体制で運行が可能となった時点で追加したいと考えます。

#### ●意見なし

異議がなかったため、議案第3号及び議案第4号については原案どおり承認された。

<議案第5号 令和6年度 中野市・山ノ内町地域公共交通対策協議会役員の選任について>

→ 中野市 副市長 竹内 敏昭 (会長)

・規約第9条に基づき、会長は、中野市副市長、副会長は、山ノ内町副町長を充てることとしております。監事については委員の中から2名、互選により選任をお願いします。

#### ●中野ハイヤー株式会社 石渡 陸夫

・監事については、引き続き前年度と同じ、中野市社会福祉協議会の酒井委員、山ノ内町社会福祉協議会の山口委員にお願いしたい。

#### ●そのほか意見なし

異議がなかったため、議案第5号については、原案どおり承認された。

【令和6年度役員】

- ・会 長：中野市長 副市長 竹内委員
- ・副会長：山ノ内町 副町長 久保田委員
- ・監 事：中野市社会福祉協議会 会長 酒井委員
- ・監 事：山ノ内町社会福祉協議会 事務局長 山口委員

<議案第6号 地域間線系統確保維持計画(案)について>

→長電バス株式会社 乗合・乗用部長代理 高山 和良

・上林線について、例年通りの計画、欠損見込額、国・県・自治体の補助についても例年と大差ない額である。

・その他特記事項として、2024年からの残業規制・運転手不足による運行本数維持が懸念されると書いてあるように、今後、採用を上回る離職が考えられる。

・永田線について、国・県の負担額が空欄となっていますが、昨年も説明させてもらったが、国の補助対象の計画輸送量が15.0で、永田線は6.1となっており、本来は幹線補助対象であるが、前年度までは国によるコロナ救済特例措置により幹線補助対象外となっていた。そのため、15.0を下回っていても国の補助が特例でもらえていたが、今回も同様の措置があるかどうか現時点で不明なため、負担金額を空欄とした。国の補助金がもらえなかった場合は、自治体負担が増額するため、ご協力をお願いしたい。

・中野木島線について、全系統を補助対象としたうえで、2023年12月に土日・祝日を中心に大幅な減便をした。欠損見込額が昨年度は、9,500千円、負担額については、国県が2,690千円、自治体が4,120千円を見込んでいる。

→【事務局】中野市総務部企画財政課 課長 阿藤 博之（事務局長）

・永田線は、冬場の期間、中学生が30名程通学のため、乗車している現状であるため、慎重に対応し、検討しなくてはならない路線であります。令和6年度は、予算措置してあるため、対応できるが、今後については、市としても検討していく。

●そのほか意見なし

異議がなかったため、議案第6号については、原案どおり承認された。

<議案第7号 地域公共交通計画別紙（案）について>

→ 中野市 副市長 竹内 敏昭（会長）

・この計画につきましては、中野市と山ノ内町の先ほど話が出ました地域のフィーダー系統路線について、本協議会で運行計画、改善方針について協議した上で国へ提出し、承認を受けることで補助対象路線となるものです。

→【事務局】中野市総務部企画財政課 課長 阿藤 博之（事務局長）

・中野市・山ノ内町地域において、長野市方面等の地域を結ぶ長野電鉄長野線を軸に、長電バスによる路線バス、乗合タクシーなど公共交通網が広がっている。

長電バスの路線バスについては、中野市内の総合病院・産業施設等へ向かう手段として、車を運転できない方などを中心に、生活に必要不可欠な幹線交通として機能している。

人口減少と自家用車の普及により、当地域の公共交通機関の維持・確保、地域の高齢者の幹線交通までの移動手段の確保が喫緊の課題である。課題に対し、幹線交通の利用者増、幹線交通までの移動手段として接続する支線交通の役割は、非常に重要である。地域住民の生活に必要不可欠な幹線交通の廃止代替路線及び幹線交通に接続するための支線交通として地域公共交通確保維持改善事業を実施し、今後も路線確保・維持し、住民の生活交通手段を存続できるよう努めます。

・事業の目標年間利用者数について、ふれあいバス間山線、豊田地域、お出かけタ

タクシーは、令和5年度実績が非常に厳しい状況である。

●そのほか意見なし

異議がなかったため、議案第6号については、原案どおり承認された。

〈その他「共生 MaaS プロジェクト事業を活用した実証運行について」〉

→【事務局】中野市総務部企画財政課 課長 阿藤 博之（事務局長）

・中野市・山ノ内町地域公共交通計画を令和4年8月に策定した中、AIを活用した公共交通システムについて研究をしてほしいと住民からの意見があり、新たな交通システムを研究する中で、国土交通省の補助事業を活用し、実証運行を実施したいと考えている。本来であれば、今回の議案で皆さんから議決をいただき、実証運行を実施する運びとなるが、今の時点では、関係する交通事業者と調整が済んでいないため、今回は、実施を進めている段階であると報告させていただく。

地域課題については、高齢化による免許返納増加、高齢者を中心に移動手段の確保が困難になっている。高齢者の移動で不便を感じる場面として最も多いのは、介護、通院である。実証実験では、高齢者の買い物に特化したドア・ツー・ドア型の乗合タクシーの展開を検討している。

・「ふれ AI タクシー」は自宅から目的地まで、目的地から自宅までの間のドア・ツー・ドアで移動、対象地区は、延徳・平野・高岳エリア、対象者70歳以上となり、運行時間は9時30分から15時までとなる。

●長野工業高等専門学校 柳沢委員

・山ノ内町にも話したが、デマンドの導入は、定時定路線より人数が減ると思われる。どこも利用者数が減っているのは事実。フルデマンドを実施することは、安い料金となり、当然、タクシー事業者、交通事業者は大打撃を受ける。中には撤退事業者も出てくると予想でき、民間事業者がまだ頑張ってくれているなら、民間事業者とよく話し合い、持続できるよう、民間事業者と協力できるよう体制作りを進めてほしい。

・市民の皆様は、ドア・ツー・ドアで安い料金で利用できるなら、導入に賛成します。ただ、利用できない、動けない人は、福祉で対応すべきと考える。高齢者対応は、福祉関係事業者で住み分けをした方がよく、それをしないと中野市の公共交通は崩れていき、民間事業者も本当に廃業・撤退となるため、よく検討してもらいたいし、フルデマンドは導入しないほうがいい。

・対象者70歳以上の高齢者が予約機能を利用できない。自分の親に使い方を教えてみてください、使えないはずです。

・視察に行っても、フルデマンドを導入している地域で、実際に成功している自治体なんてない。それから、1日の利用回数が会員1人一回とあるが、どうやって判定判別するのですか。利用した方が、どうしても大事な用事があり、もう一度利用したい場合は、使えませんかというのですか。

・議員も市民からの声があれば、デマンドを導入してほしいと言う。必ずどこの自

治体でも同じで、要するに地元の代表で議員になっているため、市民からの声があれば、言うしかないのが現状だと考える。

・AI デマンドは補助的なものであり、利用者が少ない中、AI を導入するより、電話予約を地元の事業者をお願いしたほうが、効率良くやってくれます。事務局に聞きますが、AI デマンドの良いところって何ですか、お答えください。

→【事務局】中野市総務部企画財政課 課長 阿藤 博之（事務局長）

・経過については、令和 4 年に策定した公共交通計画の中で新たな公共交通システムの研究、課題を踏まえ、AI による自動配車システムを駆使したデマンド交通の有効性の検証検討に取り組んでいる。路線バス・長野電鉄・JR 等全体を考慮しながら判断するが、運転手不足から始まり、朝夕以外、日中の時間で乗降者が少ない中でバスを走らせる価値があるのかとも言われてもいる。朝夕は通常のタクシー、路線バス利用をしてもらい、乗客が少ない時間帯については、今回計画している実証運行のデマンドを利用してもらう予定です。

・市としても運転手不足から始まり、色々対策しても、なかなか乗客が増えない中、バス停を設置要望・要求には全て応えてきた部分はある。それでも、乗客が増えないため、福祉的な要素が強いが、オンデマンドの交通実証運行を実施したい考えです。将来的は、「お出かけタクシー」から「ふれ AI タクシー」に移行したい考えである。

・AI 導入については、職員・事業所の負担軽減を図れればと考えている。柳沢先生の言うとおおり、課題も多いのも理解しており、できるだけ乗合いとしたいとも考えている。タクシー事業者とも何度も協議しなければと思っており、確かに電話予約で十分であると、当然として意見としていただいている。ただ、中野市として何もしないわけにはいかない状況の中、あらゆる事業の予算確認、補助金を使って事業に取り組み、より良い公共交通を構築できればと考えている。

→【事務局】山ノ内町未来創造課 課長 堀米 貴秀（副事務局長）

・山ノ内町の現状として、補足説明させていただきますと、山ノ内町コミュニティバスである楽ちんバスに関しては、昨今の運転手不足の中で運行を維持することが難しいことから、デマンド交通として、チョイソコやまのうちの実証運行を実施している。

このデマンド実証運行の実施については、事業者である長電さんとも十分協議をし、高山委員もいらっしゃるので、協議については、高山委員にも聞いていただければ、内容について十分理解していただいていると思います。

・電話予約について、年配者が地域の方言が分かるような内容で予約受付ができれば一番良いと思っています。

・山ノ内町としても、電話予約を長電バス湯田中営業所さんでできればと考え、協議してきましたが、長電さんからは、運転手不足・人手不足の中ではできないと回答がありました。

・デマンド運行管理についても、長電さんにお問い合わせできるか協議しましたが、やは

り、人手不足・運転手が不足する中、通常のタクシー業務と並行してのデマンド運行管理はできないと回答がありました。

・長電さんと協議を行い、どうしても人員が不足する課題がある中で、デマンド交通の実施を考えたときに、当面の間については、AI デマンドで対応していくことになりました。

・実証運行の開始時から、長電さんとは、運転手の確保、運行管理の人員確保ができるまでは、AI を使って実証運行をして行きましようかとまとめ、運転手不足の解消に向けては、町広報を使い募集している。長電さんから聞いている情報としては、現在 5 名の運転手の申し込みがあると聞いています。その 5 名が採用に至っているかについては、確認している状況です。

・柳沢先生の仰るとおりの部分もありますが、AI デマンドの導入は、人手不足・人材確保が難しい現状を考えた中、また様々な協議を行った中で、AI デマンドを導入している。導入については、ご理解いただければと思います。

#### ●中野ハイヤー株式会社 石渡委員

・交通事業者としても、コロナ前、今では、タクシー事業に関して大きく様子が変わっており、夜間の外出が禁止・抑制された点は、今でも影響していると感じる。

・コロナ前より状況改善されたが、辞めた人が多くおり、運転手不足については、かなり深刻な状況である。実際問題、タクシー事業として苦しい状況の中で、今のフルデマンドの話聞いて不安になる。果たして、これが上手くいくのか、中野市・山ノ内町地域公共交通対策協議会の趣旨を達成。タクシー事業者が生き残れる方法を見つけてほしい。

・東信で、3 社によるデマンドをやったが、廃止になった。かなり苦しい状況の中続けたが、駄目だった。その地域にはタクシー業者がないため、タクシー空白地域になっている。公共交通そのものが壊滅状況に追い込まれる可能性がある中で、この政策が市民からやって良かったと思える結果になるように、引き続き研究して欲しい。

#### ●長電バス株式会社 高山委員

・長電としても運転手不足の解消に向け、12 月から普通免許しか所有していない方を対象に教習所で教育訓練を実施している。

・毎月 2・3 名参加していただき、最初は小型車から始め、12m の貸切バスまで運転してもらっている。3 月時点で 30 数名の参加者があったが、採用に至ったのは、3 名であり、1 割となっている。

#### ●公募 松本委員

・コミュニティバスの多くがワゴン車であるが、決まりはあるのか知りたい。

→【事務局】中野市総務部企画財政課 課長 阿藤 博之（事務局長）

・決まっていないと思われる。ただ、公共交通として乗り残しが許されないため、

普通車で運転できるワゴン車を選択している。人数が乗れない車で運行した場合、利用者が多くなれば機能できなくなるため、台数を増やす検討が必要になる。できるだけ、効率よく、乗り残ししないようワゴン車で運行している。

<その他>

●そのほか意見なし

閉会